



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二四四号）

立春

二月四日

山田産土神の御頭神事

御頭おかしらといえは、棟梁などグループのリーダーを指しますが、伊勢では獅子頭のこと。獅子頭を尊んで「御頭」と呼びます。

一月から二月、伊勢では地区の氏神さまで悪霊を祓うという御頭神事が行われます。特に外宮周辺の山田産土神うぶすなかみ八社と呼ばれる、今社、世木神社、箕曲中松原社、上社、坂社（藤社も合祀）、菰社、須原大社では室町時代から伝わり、今に引き継がれています。

神事当日は各社で所蔵している御頭を神前に納め、鏡餅や御神酒、野菜なども供え、祭典を行います。そこで御頭に神さまに遷うつっていただくのです。

その後、神楽師かぐらしによって御頭舞が始まります。御頭舞は須佐之男命すさのおのみことが八岐大蛇を退治する神話を七段の舞で表します。まずは大蛇が生贄いけにえの稲名田姫いななひめを探し歩き、酒樽を見つけると酒をごくごくと呑み、酔ってあばれる。やがて寝てしまい、尾っぽから天叢雲剣あめのむすぶものが出現、退治されると、神となって天上へ昇っていくという筋立てです。場面転換する一段ごとに氏子総代や神楽師が肩を貸して御頭を休憩させるので、ストーリーの進み方がわかります。大きな口をがばりと開けたり、ガチッと歯を噛み合わせたり、豪快な動作は見ている者をあきさせません。酒に酔って寝てしまう場面では敷物が敷かれ、臨場感たっぷりです。

舞が終われば、御頭の頭に付いている紙垂をもらったり、大きな口で頭を噛んでもらったりするのが恒例です。私もこわごわ噛んでもらうと、ありがたく感じました。

それにしてもこの御頭神事、『伊勢市史』によれば市内十六ヶ所で確認されていますが、内宮の周辺にはありません。ご祭神の天照大神あまてらすおみかみを怒らせてしまった弟神の須佐之男命にちなむ舞だから、人々が遠慮したのでしょうか。山田産土神では、二月十一日に坂社や須原大社、今社で御頭神事が行われます。

文 千種清美

